

第二回とうほく学生演劇祭事前企画いっぽづめ

「公開作戦会議」レポート

お疲れ様です！第二回とうほく学生演劇祭実行委員会のくちきです。

先日4月5日に行われた、「公開作戦会議」の様をお伝えします。

最初に公開作戦会議とはいったい何？という疑問にお答えしようと思います。

「とうほく学生演劇祭、どんなイベントにしていきたい？」を実行委員だけでなく、参加できる学生、興味を持ってくださっている大人のみなさんまで

よりリアルな生の声を演劇祭に反映させるための意見交換の場です！

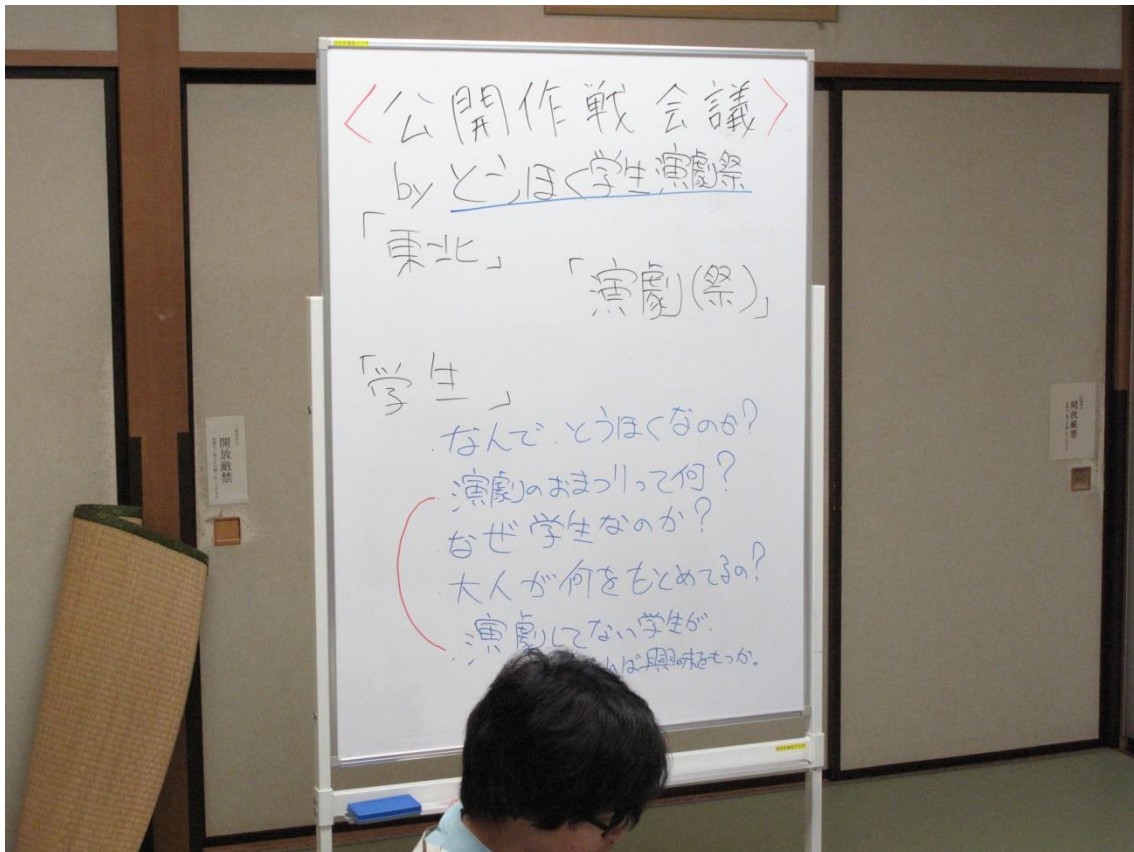
会場は仙台市福祉プラザ大広間2でありながら

会議の様子を Ustream で live 中継+twitter にて議事中継・意見募集を行いうことで誰でもどこからでも参加可能な演劇祭運営会議になりました！



会場の模様

最初に「東北」「学生」「演劇（祭）」をキーワードに参加者から自分が今興味を持っていること、人と話したいことを募集し、それについて話していきました。
出たものはこちら



(A) 演劇をしてない人を巻き込む仕掛け

「演劇を観る人をどうやったら増やせるか？」という話題は学生演劇に携わっている人の多くが非常に興味を持っているようで、会議中再三話題に上がりました。

(1) 盛り上がってる感

M1 グランプリやワールドカップのように演劇の中にも世間に浸透している一大フェスティバルを起こしていきたいですね。

「普段の公演を寄席とすると、祭りは M1 というか開かれた感じ。普段は行かなくても演劇祭なら身にいこうかな、サッカー見ないけどワールドカップは見るよっていう」
(鈴木あいれさんのコメント)

映画祭、芸術祭などとコラボすることにより、盛り上がってる感を演出していけば、というアイデアも出ました。

(2) 他ジャンルとのコラボ

また、塾講師や教師の授業の進め方のヒントを演劇から得ようとするところから演劇に興味を持った、という参加者もいたため、教育など、演劇と違うジャンルと演劇を結ぶことで演劇への興味を持つ人を増やせないか、という意見も出ました。

(3) 劇場へのハードルを下げる

劇場にまだ行ったことがない人にとっては、劇場は未知の場所。外部の人からすると閉塞感があるため行き辛いもの。

そのため、友達から誘われれば行きやすい、という意見が出たり

劇場自体を開かれた場所とアピールするために、とうほく学生演劇祭の様子を東北各県の劇場で放送する、というアイデアも生まれました。



(4) 演劇を観に行く理由を増やす

仙台市には、せんだい演劇工房 10・BOX という演劇施設があります。仙台市で一番演劇公演が行われる頻度が高い施設で、去年とうほく学生演劇祭もこちらで開催させていただき

ました。ただ、この施設は卸町という仙台市中心部からやや離れたところにあり少し足を運びにくいです。

この近くに杜の市場という、仙台市の美味しい食材、飲食店を一挙に集めた場外市場があります。ここに行けば、様々な美味しいものがいただけます。

劇場に行くついでにここで美味しいものを食べたり、美味しいものを食べに行くついでに」劇場に行くなどして

卸町に行く理由を二つにすれば、相乗効果でお客さんを増やせるのでは、という発想。これは、(2)の他ジャンルとのコラボとも非常に近いですね。

(5) 演劇祭の出品作品の多様さ

演劇を既に知っている友達が演劇をまだ知らない友達を劇場に連れてくるためには、作品の面白さも大切…。ただ、演劇には様々な作品があり、どの作品が面白いのか、どの作品であれば友達が気に入るかわからない、となれば、ここで演劇祭の出番です。

複数の作品を一挙に観れる演劇祭であれば、友達が気に入る作品に出会える確率は高まります。ここに来れば一つは面白い作品がある、という担保も演劇をまだ知らない人が足を運ぶ要因になれそうです。



(B) 「とうほく」のやり方

(1) 高校演劇の大会に寄せる

今後のとうほく学生演劇祭のやり方として、北東北、南東北でブロック予選を行い、決勝で4団体くらいが戦う、というやり方が提案されました。高校演劇の大会に近い仕組みですね

(2) 各県の学生演劇ショーケース

他地域の学生演劇祭は、基本的に1都市体制（例：京都学生演劇祭、名古屋学生演劇祭）で、地方規模で開催されているのは全国でも「とうほく学生演劇祭」のみ。この広さがあるからこそ、各団体同士でいい意味で距離感が生まれ、作風にも多様性が出るのでは、という意見も出ました。とうほく学生演劇祭は、うまいもの物産市のような学生演劇のショーケースの役割も果たせそうです！



(3) 観劇おじさんの力を借りる

東北地方は一つ一つの県が大きいので、学生では行き来が大変…。では、観劇おじさんの力を借りてはどうだろう！観劇おじさんとは、どの地域にも一人はいる（たぶん）、その地

域の演劇作品を全網羅しているおじさん（おばさんも？）の事です。
そういった大人の方に車を出してもらい、学生も乗り合わせれば交流も深まるし、負担も減るしで、一石二鳥！
というわけで、ご協力いただける観劇おじさん、募集中です。

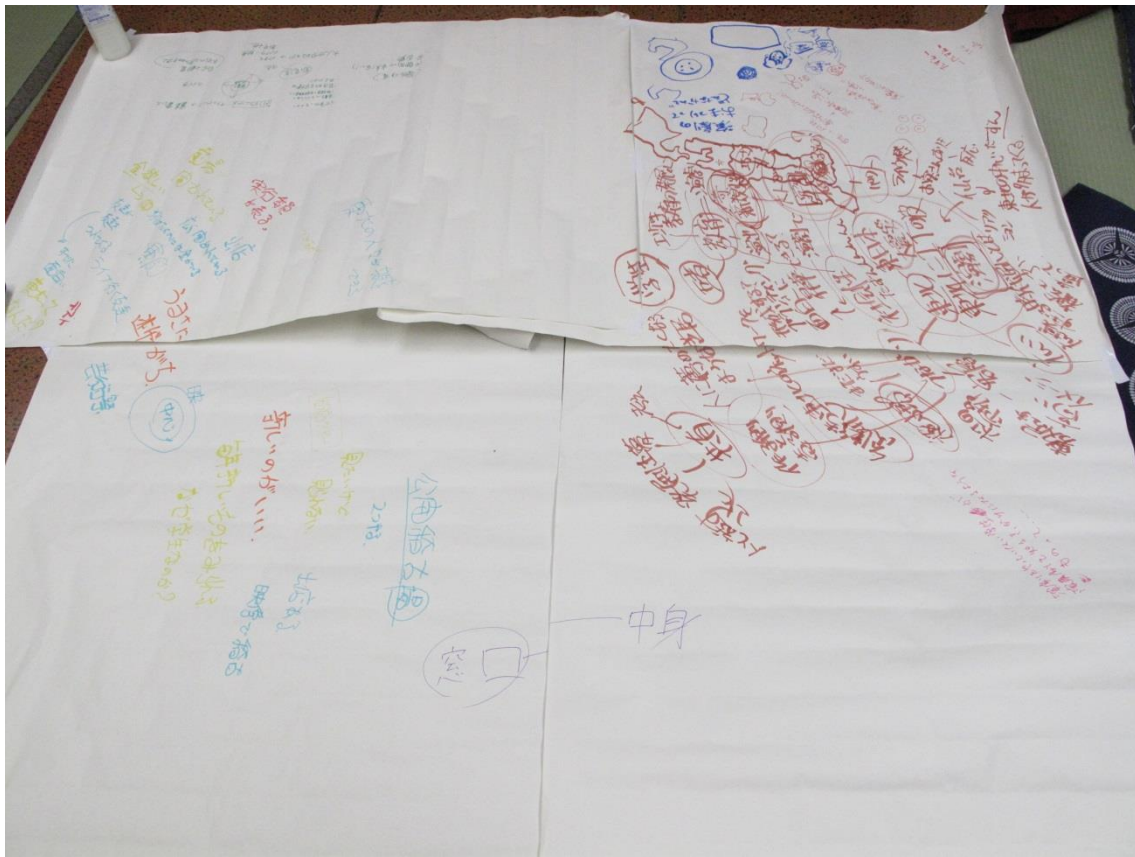


(C) 稽古場公開

ツイッターから、「劇そのものでなくつくる過程が見たい」という投稿があり議論が広がっていきました。

東北規模で直接出向いて稽古の見せ合いをするのは難しい…と思いきや、参加団体各自でビデオで稽古を撮って **youtube** に上げてもらえれば、各地域にいながら外部の稽古場が見れるのです！

撮影の角度も、舞台側だけを撮るのではなく、観てる側・舞台側の両方を撮れば稽古場そのものの様子が見れて面白い、という意見も出ました。



以上で公開作戦会議レポートはおしまいです。

このレポートを読んで思いついたアイデア（実現可能不可能問わず）がある方や、学生演劇祭をお手伝いしていただける方（年齢問わず）は、とうほく学生演劇祭実行委員会（tstfeata@gmail.com）までお問い合わせください。お待ちしております。

合言葉は「とうほくで、盛り上がり」！

（文責・第二回とうほく学生演劇祭実行委員会 朽木雄介）